

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 18 年 9 月 21 日 (2006.9.21)

【公開番号】特開 2005-96733 (P2005-96733A)
 【公開日】平成 17 年 4 月 14 日 (2005.4.14)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-015
 【出願番号】特願 2004-73181 (P2004-73181)
 【国際特許分類】

B 6 0 R 11/02 (2006.01)
G 0 3 B 21/00 (2006.01)
G 0 3 B 21/58 (2006.01)
H 0 4 N 5/64 (2006.01)
H 0 4 N 9/31 (2006.01)

【F I】

B 6 0 R 11/02 C
 G 0 3 B 21/00 D
 G 0 3 B 21/58
 H 0 4 N 5/64 5 2 1 Z
 H 0 4 N 9/31 D

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 8 月 8 日 (2006.8.8)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 9】

弾性部材 3 3 4 L 及び 3 3 4 R はそれぞれ、典型的には合成樹脂又は天然樹脂で構成される紐状又は棒状の部材である。弾性部材 3 3 4 L は、固定部材 3 3 2 L の底面と、連結部材 3 3 3 の底面との間を渡すように配置され、弾性部材 3 3 4 L の一方端及び他方端は、固定部材 3 3 2 L 及び連結部材 3 3 3 に固着される。弾性部材 3 3 4 R は、中心面 M - M' を基準として、弾性部材 3 3 4 L と対称な位置に設置され、弾性部材 3 3 4 R の一方端及び他方端は、連結部材 3 3 3 及び固定部材 3 3 2 R に固着される。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 9】

観視者は、車外向けスクリーン 3 2 を引っ張り出し、開口部分 G に展開すると（図 5 参照）、固定部材 4 を使って、車外向けスクリーン 3 2 の先端部分を車両 A に対して固定する。具体的には、観視者は、組みを構成する磁石 3 2 1 及び 3 2 2 同士を重ね合わせ、これによって、磁石 3 2 1 及び 3 2 2 が互いに吸着し合い、車外向けスクリーン 3 2 は固定される。ここで、弾性部材 3 3 4 L 及び 3 3 4 R は、現在掬れているので、復元力が生じる。その結果、車外向けスクリーン 3 2 には、車外収納部 3 1 の方向への力が働き、さらに、固定部材 4 の方向への力も働く。これによって、車外向けスクリーン 3 2 は、図 1 0 に示すように、弛みのない状態になる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

また、既に述べた回転機構35L及び35R以外にも、スピーカ34L及び34Rを回転させる機構については、様々な変型例又は構成例がある。例えば、車外向けスクリーン32が展開され、固定部材4で位置決めされるまでの間、支持部材331は回転する。回転機構35L及び35Rは、支持部材331の回転により発生する力を、例えばギアを介してスピーカ34L及び34Rに伝達して、車外の方角に向くようにスピーカ34L及び34Rを回転させても良い。また、支持部材331は、車外向けスクリーン32を収納するためにも回転するので、回転機構35L及び35Rは、支持部材331の回転により発生する力により、車内の方角に向くようにスピーカ34L及び34Rを回転させても良い。

【手続補正4】

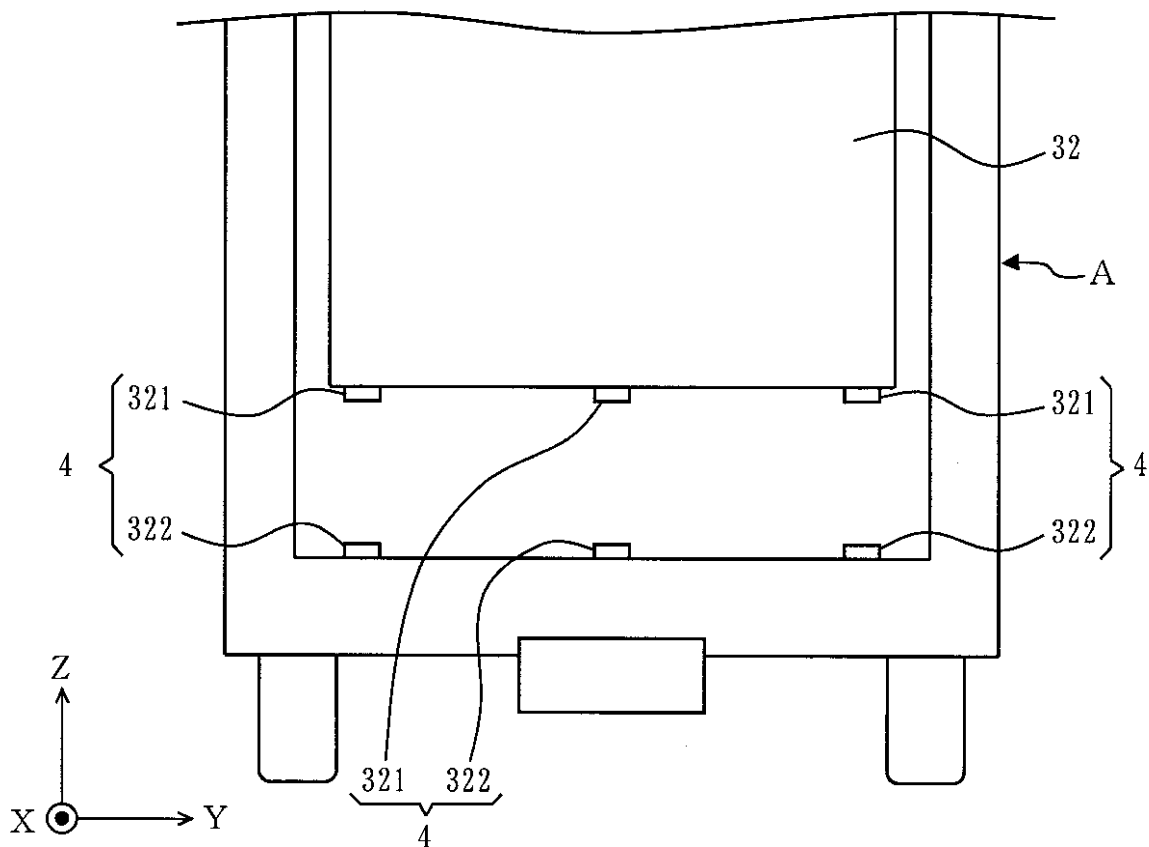
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図9A

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図9A】



【手続補正5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図9B

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 9 B 】

